

ナルニア国物語

魔術師のおい

14

C・S・ルイス

土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

第14話 玄関前の大騒ぎ(後編)

もしかしたら

どこかに
ほんとうに

〈若さの国〉が
あるのかもしれない

何だって
不可能とは
言いきれない
はずだ

だって



いまの
自分は

この世とはちがう
別の世界が
ほんとうに
存在することを
知っているし

じっさいに
そういう世界のひとつへ
行ってきたじゃないか……！

どこか
ほかの世界に

お母さんを
治してくれる果物が
あるかもしれない！





それに

それに――

…そんな
都合のよいことなど
とても実現するはずが
ないだろう？

これまで
何度も願っては
失望してきた？

…でも

もしかしたら…

………
もしかしたら
実現できるかも
しれない……

いままでだって
もうすでに
不思議なことが
さんさん起こって
いるのだし

それに
自分の手もとには
魔法の指輪があるのだ

あの森の
いろんな水たまりに
飛びこめば

さまざまな世界へ
行けるに
ちがいない



ひとつひとつ
手あたりしだいに
探してみれば
いいのだ

そうすれば
お母さんが
治るかもしれない

何もかもが
以前のように
なるかもしれない……









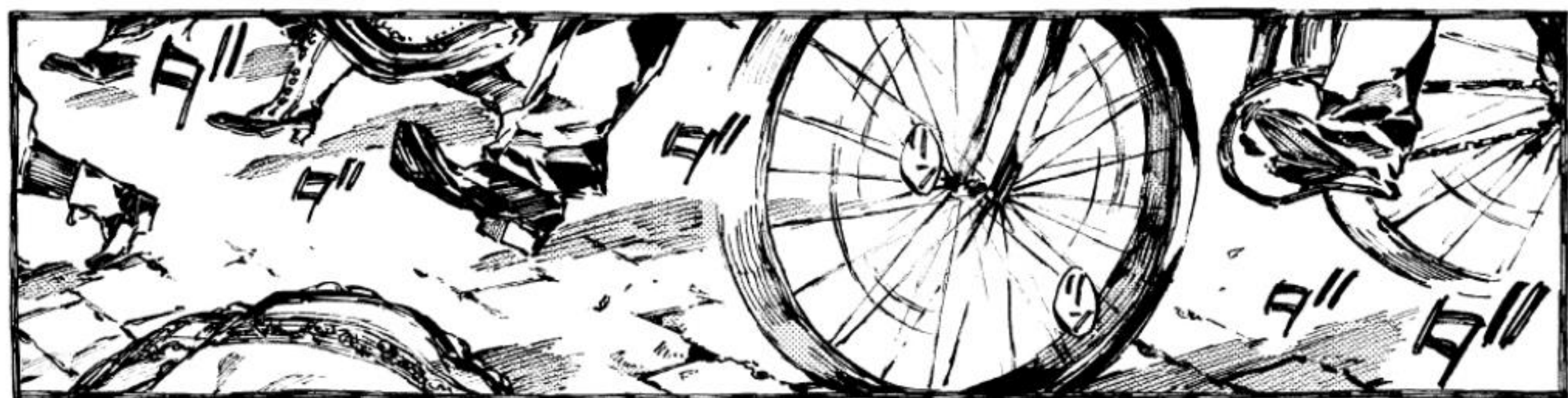


あいつだ!!























ありがとうございます
ございます

ありがとうございます

ありがとうございます
ございます…

いやはや

すっかり縮み
あがりましたわい



どなたか

ブランデーを
一杯
くださらん
かな

いいですか

事情を
聞かせて
もらいますよ



あそこにいる
若い女性は

おたくの
お連れ
ですか？

あぶない！





：なんとか
魔女にさわれる
ところまで
近づきたい
けれど……





こっちは
人多すぎる

…かといって
反対側へ
回るには

あの興奮した
馬の後ろ足と
鉄柵とのあいだを
通らなきゃいけない…



危険
だけど…

…でも



行かなきゃ…!





あの

ちよつと



あの女が
乗ってんのは

あたしの
馬なんでさ



おまわりさん!



んな悠長なこと
言ってる場合じゃ
ねえんです



んで

あの女が
木っ端みじんに
しやがった馬車も

あたしの
馬車なんでさ！

一人ずつ順に

一人ずつ順に
やりますから…



あの馬の
こたあ

あたしのほうが
よくわかってん
だから

ありや

そんじよ
そこらの馬じゃ
ねえんだ





あれの
父親は

騎兵隊の
将校さんを
乗付けてた
軍馬なんでさ

あの女が馬を
あおりつづけたら

いまに
死人が
出ますよ



ほれ

嬢さんよ



ちよつと

あれのとこへ
行かして
くださいよ





そんであんたは
降りたほうがいい



その馬の手綱を
取らして
おくんなさい



あんたみたいなの
レディが

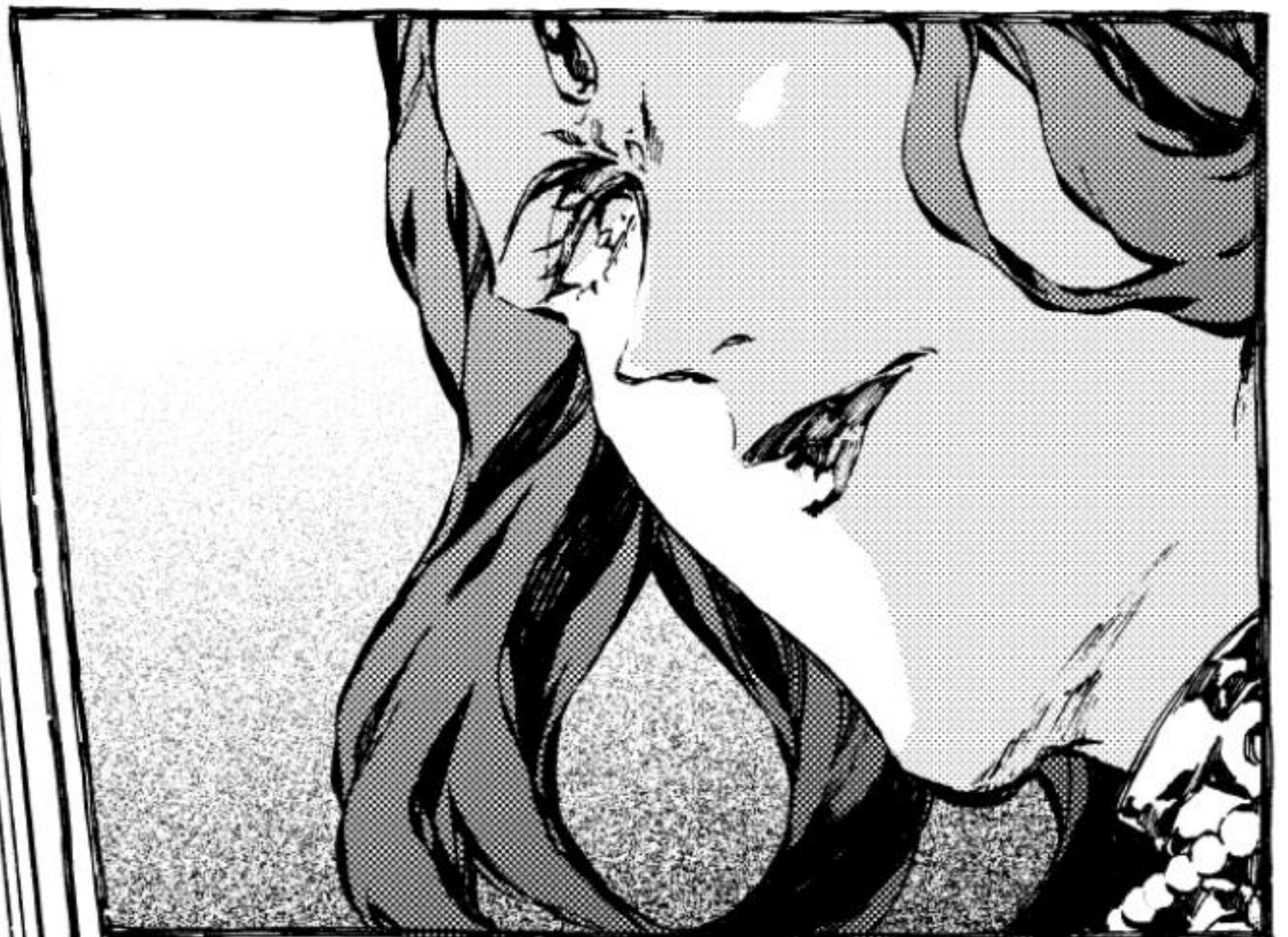
こんな
やつかいごとに
巻きこまれたくは
ねえだろう？



うちに帰って
お茶でも飲んで
おとなしく
横になるがいいよ

そうすりや
気分が
良くなるって





犬め!!



…犬め

王の乗馬から
手を放せ

余は

女帝
ジェイデイスで
あるぞ

つづく